

1 生徒の実態 (実態把握・調査結果の分析)

(1) 生徒の実態

- 1年生・・・少人数のせい、競争意識やお互いに高めあおうとする気持ちに欠けている。個々の様子を見ると少しずつではあるが、学習意欲が出てきたように感じる。
- 2年生・・・授業への取り組みは真剣で、意欲的である。人との応対にもけじめができてい。実技の面では特別高い技能を持っている生徒はいないが、真面目に取り組むことにより、良い作品を作り上げる生徒が多い。
- 3年生・・・明るく積極的であり、お互いにより競争心を持っている。自ら進んで学ぼうとする真面目な姿勢が見える。基礎的な技能においては全体的にしっかりとしたものを持っている。

(2) 調査結果の分析

全学年・・・生徒自身は家庭学習と意識していなくても、家庭生活の中で経験的に学習していることが多いので、問1の結果は問題ないと感じている。

問2の忘れ物の多い結果には、授業の進度に影響することもあるので、この調査が生徒の自覚につながればよいと思う。教師側からは、次回の持ち物の伝達方法をより明確に生徒に伝わるよう工夫する。

問4からの全ての項目を100%に近づける努力が教師側に必要である。

2 指導上の課題

- ・ 授業に対する関心、意欲は高いが、学習したことと自身の生活とが結びついていないことに気付かない生徒も見受けられる。多くの資料を提示し、学習と生活との結びつきを図っていくことが必要と思われる。
- ・ 授業の目標、評価のポイントの説明の際は、生徒が常に意識できるようにプリントなどに活字として明記する等の必要も感じる。また、生徒の発達段階からみて、プリントの字は少し大きめにし、文章も理解しやすい言葉を使うよう心掛ける。
- ・ 製作の苦手な生徒にも、完成したときの充実感を体験させるためには指導計画よりも多くの時間を割くことになる。予定通り完成した生徒への発展的な教材探しを工夫する。

3 授業改善の視点とその方策

- (1) 生徒一人ひとりの個性や能力にふさわしい学習活動ができるように配慮する。
- (2) 「生活の自立」をめざす基礎的な学習としてのありかたを見直し、本校の生徒にふさわしい内容を見出す。
- (3) 毎時間の授業の目標やねらいを生徒がわかりやすいように示し、何を学ぶのかをより意識できるようにする。
- (4) 製作の遅れがちな生徒には、進んでいる生徒に援助させることにより、互いに教材に関するより深い理解ができるようにする。

4 その他

- ・ 一斉授業の困難な生徒に関しては、授業時間内の個人指導の他に、放課後を利用しての補習指導の機会を設ける。
- ・ 教科の特質上、課程との連携は欠かすことが出来ないものなので、家庭の協力が得られるようにする